

研究データ管理に係る人材の育成： 九州大学統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻 研究データ管理(RDM)支援人材育成プログラム

石田 栄美

九州大学

データ駆動イノベーション推進本部

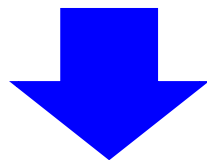
研究データ管理支援部門

October 19, 2023




九州大学

- 『第6期科学技術・イノベーション基本計画』(2021年3月閣議決定)
 - 大学等の研究機関は、新たな研究システムの構築のために「信頼性のある研究データの適切な管理・利活用促進のための環境整備」と強化が喫緊の課題
- 文部科学省オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について(審議のまとめ)」(2023年2月)
 - 「大学図書館職員は、これまでの業務に加え、研究データの管理にも携わることになるため、大学における学問の在り方や研究のライフサイクルを理解することが不可欠であり、その中で自らが行う支援がどのような機能として位置づけられるか認識し、適切にそれを行っていく」



- 研究データ管理にも積極的にかかわる必要性
 - 研究データ管理に向けた環境整備
 - 研究者の研究データ管理を支援する人材

- 統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻(2011年3月～)
 - 研究対象:ユーザーの視点に立った新たな情報の管理と提供の場
 - 高度な情報専門職の育成
 - 研究データ管理支援部門(2022年4月～)
 - 研究データ管理に関する情報基盤
 - 研究データ管理に関する人的支援
 - 研究データ管理を支援する人材の育成(実践の場の提供)
- 
- 研究データ管理(RDM)支援人材育成プログラム(履修証明プログラム)の設置(2023年10月～)
 - 「履修証明書」を発行

■ 育成の目的

- 研究データ管理人材／研究データ管理支援人材
- 初心者向け／上級者向け
- 実務志向／研究志向
- ネットワークの構築

■ カリキュラム

- 理論と実践の両面
- 既存のテキストからだけでは学べない内容
- 海外・国内の動向
- 研究データ管理支援の進捗に応じて変更可能な構成

■ 負担感

- カリキュラム・履修期間
- 授業形態：対面授業／オンライン授業



■ 名称

- 研究データ管理(RDM)支援人材育成プログラム

<https://www.ifs.kyushu-u.ac.jp/lss/lss-07-00/lss-07-01/>

■ プログラム概要

- プログラム構成: 5科目5単位
- 1年間で履修可能(秋学期から翌年度の春学期まで)
- 対面授業(集中講義)とオンライン授業の組み合わせ

■ 育成する人材像

- 研究データ管理の遂行にあたり適切な支援ができる人材
- 各々の研究組織において研究データ管理支援のための体制構築やサービス設計ができる人材
- 研究データ管理支援人材として組織を超えたネットワークを構築できる人材
- 研究データ管理支援に何らかの貢献がしたい人



■ 想定する履修者

- 大学をはじめとする研究機関の大学図書館職員、URA、研究推進に関わる部署等の実務家
- 大学院生

■ 募集をした際の呼びかけ

- 研究データ管理に興味を持っている人
- 研究データ管理支援の第一歩を踏み出してみたい人
- 研究データ管理に関してほぼ知識がない人

カリキュラム

理論面

背景

研究データ管理基礎

研究活動の変化と
情報管理の理論

研究データ管理支援1

研究データ管理支援2

実践

研究データ管理支援演習



研究データ管理支援に関する知識・スキル・実践力の育成

■「研究データ管理基礎」(15時間・1単位)

■ 概要

研究データ管理支援の適切な遂行には、データ管理に関する社会的ニーズ、研究データ管理に関わる研究機関の役割等についての理解が必須である。本科目では、研究データ管理の背景を把握し、大学等の研究機関における研究データ管理の意義や支援の必要性を理解する。

■ 項目

- 研究データ管理とは
- データに関する世界的潮流
- 国のデータに関する政策
- 研究データ管理の意義と必要性
- 大学における情報ガバナンス(研究DX、教育DX等)
- 大学における研究データポリシー
- 研究データ管理における大学図書館の役割
- 研究データ管理支援者の役割

■「研究活動の変化と情報管理の理論」(15時間・1単位)

■ 概要

研究データ管理支援者は、研究者の研究ライフサイクルに合わせた支援を行う必要がある。そのため、本科目では、まず、研究活動や学術情報流通の変化、データライフサイクル等についての基礎知識を得る。次に、研究に用いられる資料や情報を適切に管理・提供していくために、伝統的に情報管理が行われてきた分野における情報管理の原理や原則、方法論について基本的な知識を得る。

■ 項目

- 研究行為と研究ライフサイクル
- データ駆動型研究とデータライフサイクル
- 学術情報とデータの流通
- データの保存と再利用
- 図書館情報学における情報管理の原則
- アーカイブズ学・記録管理における情報管理の原則(保存、評価・選別・廃棄に関する基本的な考え方)

■「研究データ管理支援1」(15時間・1単位)

■「研究データ管理支援2」(15時間・1単位)

■ 概要

研究のライフサイクルに沿って、どのような研究データ管理支援が必要なのか、支援サービスの概要について学ぶ。本科目では、海外を中心とした先駆的な研究データ管理支援サービスの事例、支援体制の構築や支援サービスの設計方法、データマネジメント教育の必要性、そして、研究前にあたるデータ管理計画(DMP)の作成に関する支援、研究遂行中のデータの組織化等の知識、研究後にあたるデータの公開・保存に向けた基盤整備、公開に向けたデータの準備、リポジトリへの登録方法に関して必要な準備・支援を修得する。また、研究データ管理支援にあたって、支援人材に求められるマインドセットについても議論する。

■「研究データ管理支援1、2」のつづき

■ 項目

- 研究データサービスの先進事例
- 支援体制の構築とサービスの設計
- データマネジメント教育
- 研究前: 研究データの定義と留意すべきデータ
- 研究前: データ管理計画(DMP)に関する支援(概説・演習)
- 研究中: 研究データの組織化(ファイル命名法、フォルダ構造等)
- 研究中: 研究データの組織化(研究室・共同研究における研究データの組織化、データ継承のための準備)
- 研究後: データの公開・保存のための基盤整備(データリポジトリ等)
- 研究後: 公開に向けたデータに関するポリシー等の確認事項
- 研究後: 公開に向けたデータの準備(クリーニング、データセットの確認、Readmeファイルの確認、メタデータの付与)
- 研究後: リポジトリへの登録
- 研究データ管理支援人材のマインドセット

■「研究データ管理支援実習」(15時間・1単位)

■ 概要

本科目では、機関ごとの実情や性質に応じた研究データ管理支援サービスを、支援人材が運用する際に必要となる知識を各種実習および議論を通じて習得する。具体的には、研究データ管理支援サービスの実務経験者による実践例の共有と、これに関連した演習を実施する。さらに、履修生と実務経験者との議論、履修生同士の議論を通じて、研究データ管理支援サービスの運用に関する実践的な知識と技能の修得を目指す。

■ 項目

- 研究者に対するニーズ調査の手法
- 研究者へのインタビュー: 事前準備・実践・評価
- 研究データ管理支援サービスの提案
- 研究者への支援サービスの実践例
- 研究者への支援サービス実践に向けた議論

■「研究データ管理の基礎」

- 2023年10月14日(土)・15日(日)の対面での集中講義(必須)
- 場所:九州大学伊都キャンパス

■「研究活動の変化と情報管理の理論」

- 2023年11月12日(土)、25日(土)にそれぞれ4コマ
- 時間割:9:00-10:30、10:40-12:10、13:00-14:30、14:40-16:10
- オンラインのライブ授業

■その他の3科目

- 2024年4月20日、5月11日・25日、6月8日・22日、7月13日
- オンラインのライブ授業

■備考

- 履修者との相談でスケジュールが変更されることがある
- 授業内容を入れ替える可能性がある

10月14日(土)

- 講義: データに関する世界的潮流(竹内比呂也・千葉大学)
- 講義: 国のデータに関する政策／RDMの意義と必要性(竹内)
- 講演: イリノイ大学図書館研究データサービスの仕事内容の紹介(英語)
- 講演: Morrow Plots データセットキュレーションプロジェクト紹介(英語)
- 演習: 履修者の履修動機・議論したいテーマの紹介

10月15日(日)

- 講義: 大学の情報ガバナンスとデータポリシーの関係(富浦洋一・九州大学)
- 講義: 研究データポリシーの策定とポイント(富浦)
- 実習: Morrow Plots データセットを例にしたキュレーションエクササイズ(英語)
- 実習: グループディスカッション

■ 履修者数

- 13名(科目等履修生)
- 5名(九州大学大学院生)

■ 履修の動機

- 勤務している部署でサービス・支援を提供する必要性
- 研究データ管理に関するニーズの高まりから勤務先でアクションや体制を整備する必要性
- 研究データ管理に関する専門的知識の不足(危機感)
- 研究データ管理に関する高い知識とスキルを身につけたい(特に研究者の研究プロセス)

- 本履修証明プログラムの方向性
 - 実習・実践の場の提供（インターンシップ等）
 - 研究データ管理支援のニーズに合わせた内容の更新
- 課題
 - 学びたい人への支援体制の構築
 - 個人参加／機関からの派遣
 - 費用面（受講料・旅費等の負担）
 - 検定料：9,800円
 - 入学料：28,200円 + 受講料：74,000円
 - スキルアップに対する評価
 - ネットワーク構築
 - 実務的なことを情報交換できる場の構築
 - Data Curation Network (<https://datacurationnetwork.org/>)